

日本発ウィーン便り：オペラ座の特別な夜

あるウィーンの夜、Staatsoper（シュターツオーパー：国立歌劇場）にて。お目当ての歌手がキャンセルになったのは残念ではありましたが、お気に入りのLoge（ロージェ：日本語ではボックス席？）に座って、素晴らしいオペラを楽しんで（相変わらずストーリーは突っ込みどころ満載ですが）カーテンコールもそろそろ終わり、あとは、いつものカフェで、と思っていたのですが、再度幕の上がった舞台は何かいつもと様子が違います。

出演者からオーケストラ、指揮者に裏方らしき人達まで勢ぞろい。なんだろ？と思っていたら、Staatsoperの名誉会員になる人がいて、この日その記念のセレモニーでした。最初の方は珍しくて、まじめに聞いていましたが、大臣から劇場の支配人、そして当人と色んな人が出てきてはスピーチするんですが、（こんなこと言っちゃ悪いんですが）長いんです…。舞台を終えたばかりの歌手や指揮者・オーケストラの皆さんは、なんだか疲れた一っ感じて、だんだん不機嫌そうになってくるし、「いつ終わるんやろか？」とふと周りを見渡すと、いつの間にやらLogeには私一人！

そういえば、この日、そんなに長いオペラじゃないはずなのに、なぜか開演時間が早くて「??」だったのですが、このセレモニーが予定されていたからなんですね。まあ珍しい機会ではありましたが、どこまで行ってもオチはなさそうでしたので、途中で、劇場を後にして、カフェに向かいました。☺



ところでLogeってこんな席です。なかなか素敵なのですが、1列目以外は舞台は部分的にしか見えない。と思った方が良いでしょう。（もちろん2列目3列目は値段も安いですがね。まあ音が第一と思えば安くて良いかな。）

鞆やパンフレットも置けるし、コートを掛けたり、傘を置く場所もあって、クローク不要なので、特に冬は良いですね～。

（クロークで荷物を預けたり、受取るのも一仕事ですから。でもLoge以外の席の場合は、コートとか大きな荷物を座席に持ち込むのは厳禁ですので、ご注意ください！必ずクロークに預けましょう。☺）

Loge からの眺めはこんな感じです。この日は舞台に近めの位置でした。



座席にはこんな風に歌詞の字幕がでます。これは立ち見以外のすべての座席に装備されています。Staatsoperでは原語でオペラが上演されるのですが、字幕はドイツ語か英語から選べます。この字幕を導入してから、オペラ座のチケットの売れ行きが向上したとか。オペラって敷居が高いと思われがちですが、あらずじと登場人物だけ、なんとなくわかっていれば十分なので、難しく考えずに、まあ聞いてみれば良いのだと思います。☺

(ストーリーは「一つも進まない」「ありえない!」「矛盾してる」「なんでやねん」の連続である可能性が高いですが、あまり深く考えてはなりません。☺)



休憩時には、ドリンク片手にオペラ座を探検するなり、華やかな非日常を楽しむのも良いでしょう。でもこのところ、普通の服で来る人も多くて、以前のような別世界のような華やかさが薄れつつあるのも事実。一般化・観光化されつつあるんでしょうね。それはそれで良い事だとも思いますが、同時に少し残念でもあります。でももしオペラ座デビューの機会があれば、是非お洒落して出かけてみてくださいね。





終演後はいつもこの風景を見てから帰ります。
この歌劇場は、初めてウィーンを訪れた日からずっと、私にとっての特別な場所です。



こちらは昼間の様子です。

ある日のオペラ座の特別な夜でした。